

平成 29 年度通常（第 3 回）理事会議事録

日 時： 平成 29 年 12 月 2 日（日） 11：00～16：00

場 所： 岸記念体育会館 1 階 101・102 号室

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、中川千鶴子、桑原啓三、鈴木修、斎藤渉、坂谷定生、平松隆、中澤信夫、川北達也、天辻康裕、宮野幹弘、富田三和子、入部透、関一人、高間信行、相澤孝司、菊池邦仁、末木創造、平井昭光、森信和、大西治夫、馬場益弘、中村和哉、井川史朗、黒川重男、岡村勝美、宇都光伸

以上 27 名

出席監事：齊藤威、児玉萬平、上野保

以上 3 名

オブザーバー：安藤淳総務委員長、安藤正雄事業開発委員長、柳澤康信広報委員長、芝田崇行環境委員長、大庭秀夫レース委員長、戸張房子国際委員長、吉田豊外洋計測委員長、大坪明外洋安全委員長、小山泰彦参与、地川浩二財政委員会委員、大村雅一ルール副委員長・事務局長、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 29 名中、出席者 27 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 29 年度通常（第 3 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を鈴木修専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、川北達也、宮野幹弘の両理事が任命された。

河野会長から、セーリングワールドカップ蒲郡大会が無事終了、外洋レースではジャパンカップも成功裏に終了、また、オフショアショーケースイベントの誘致を進めている。東北関東再建寄付金については各理事からの協力をお願いしたい。重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

理事会開始前に、セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会開催を成功に貢献された森下実行委員長、森副実行委員長、桑野事務局長に対して感謝状の贈呈があった。

<審議事項>

1) 平成 30・31 年度 JSAF 理事・監事推薦候補者の推薦手続きについて

安藤総務委員長から資料に基づき、平成 30・31 年度 JSAF 理事・監事推薦候補者の推薦手続きについて説明があった。

定款並びに理事及び監事候補者推薦手続規則により、現理事（任期 2 年）及び現監事（任期 4 年）の改選を行う。新理事・新監事を選任する評議員会の開催日（2018 年 6 月）を起点とする。理事推薦候補者の評議員会への提出に関する一連の手続については、理事及び監事推薦候補者管理委員会（以下、「役員推薦候補者管理委員会」という）が行う。2017 年 12 月 2 日理事会において、会長が推薦した役員推薦候補者管理委員会委員候補者を提示し、同理事会決議により委員が決定された後、理事会終了後に同委員会初会合を開催し、互選により委員長を選任するとともに、役員候補推薦手続を開始する。監事候補者は、定款に定める監事の定数（1～3 名）内で、会長が候補者を推薦するとの発言があった。

満場一致で承認された。

2) 平成 30・31 年度役員候補推薦管理委員会の設置について

安藤総務委員長から資料に基づき、平成 30・31 年度役員候補推薦管理委員会の設置について説明があった。

役員候補推薦管理委員候補者は、平賀威氏（再任）、浜崎濠次郎氏（再任）、青山篤氏（再任）とする。本理事会決議を経て、委員会設置するとの発言があった。

満場一致で承認された。

3) 平成 29 年度 JSAF 定期表彰

安藤総務委員長から資料に基づき、平成 29 年度定期表彰に係わる実施について説明があった。

平成 29 年度定期表彰受賞候補者推薦書につき、JSAF 総務委員会及び常任委員会で可否確認をした表彰種別と審議対象者は、功労賞 3 名（大西和彦氏、小田切満寿雄氏、国府田由隆氏）、功績賞 3 名（秋山淳氏、孫正義氏、早福和彦氏）、優秀指導者賞 1 名（山下弘雄氏）、優秀競技者賞 23 名（室橋紅里子氏他 6 名、藤野功貴氏他 9 名、高山大智氏、木村直矢氏、磯崎哲也氏、高柳彬氏、土居一斗氏、吉田愛氏、吉岡美帆氏、土居愛実氏）を取り纏めた。2018 年 1 月 20 日開催の全国加盟団体代表者会議において、表彰するとの発言があった。

満場一致で承認された。

4) 日本カイトボード連盟の加盟について

安藤総務委員長から資料に基づき、日本カイトボード連盟の特別加盟団体申請について説明があった。

一般社団法人日本カイトボード連盟から日本セーリング連盟運営規則第8条1項(1)による艇種別特別加盟団体の加盟申請があった。総務委員会において、JSAF 特別加盟団体（艇種別）として連盟加盟するための条件に該当していることを確認した。なお、国際カイトボード協会（IKA）にも加盟しているとの発言があった。

平松理事から、カイトボード連盟所属の31名の会員は、JSAF 登録会員かとの質問があった。

平井理事から、複数の同様な団体が存在するようだが、日本カイトボード連盟を JSAF 特別加盟団体に認証する過程で確認されたのかとの質問があった。

安藤委員長から、JSAF 登録の会員確認は、他の加盟・特別加盟団体から連盟へ重複登録する会員も含め20名で確認している。また、複数の同様な団体については確認して次回理事会に報告するとの発言があった。

鈴木専務理事から、運営規則に定める要件は満たしているので承認いただきたいとの発言があった。

満場一致で承認された。

5) 「ナショナルチームに関する規程」の改訂について

斉藤オリンピック強化委員長から資料に基づき、ナショナルチームに関する規程改訂について説明があった。

従来の規程では十分に規定されていない点について明確化するとともに、ガイドライン的な条項を削除し、オリンピック強化委員会で管理する「オリ強業務ガイドライン」および「危機管理リスト」として別途作成、適宜改訂できるようにした。改訂概要は、2012年版規程においては、スポンサーへの協力義務等は明文化されていなかったが、新規程では、本則において広報活動への協力を義務づけるとともに、付則2（広報活動への協力に関する取扱）において協力内容の詳細やユニフォーム着用基準について明示した。また、ナショナルチーム、特別強化対象選手、NF 強化対象選手について、認定方法、認定期間、義務等を明示したとの発言があった。

安藤委員長から、今回のナショナルチームに関する規程改訂はガイドラインから規程に整理したことが主な理由であるが、協議事項としないで審議事項に提案したのは、本年11月にすでに活動を開始しているからであるとの補足説明があった。

平松理事から、ナショナルチーム強化指定選手を明確にしていきたいとの依頼があった。

満場一致で承認された。

6) 2018 ハンザワールド広島大会 JSAF 共同主催の件

高間障がい者セーリング推進委員長から資料に基づき、2018 ハンザワールド広島大会 JSAF 共同主催の件について説明があった。

本年 10 月に開催した 2018 ハンザワールドのリハーサル大会は、国際ハンザ協会の会長ならびに副会長にも参加いただき、6 か国 79 艇の参加を得て開催された。運営面等で指摘いただいたところを改善し、本大会成功につなげていきたい。2018 ハンザワールド広島大会の運営主体は、広島県セーリング連盟と考えているが、JSAF との共同主催を承認していただきたいとの発言があった。

満場一致で承認された。

<協議事項>

1) JSAF 管理システム等（ホームページ、会員管理システム、加盟団体ホームページ）に対するセキュリティ対策の推進

安藤総務委員長から資料に基づき、JSAF 管理システム等（ホームページ、会員管理システム、加盟団体ホームページ）に対するセキュリティ対策の推進について提案があった。

東京 2020 オリンピック競技大会を目前に控え、中央競技団体に対するサイバーセキュリティリスクが増大する状況にあると内閣官房サイバーセキュリティセンターからの注意喚起があった。当連盟においても、世界選手権招致等に伴う広告宣伝の拡大により、サイバー攻撃者に対するプレゼンスが向上する傾向にあることから、セキュリティ対応を実施する。現行システムのサイバーセキュリティ面の脆弱性検証は、JSAF 総務委員会、広報委員会の合同により実施する。その検証結果を元に、対策計画を構築し、JSAF 関係委員会を含む当該システム運用管理者の運用レベルの向上を図るとともに、JSAF 会員への注意喚起等の対策を実施する。対策を有償で行う必要がある場合（現行システムの改善等）は、対策の必要性、対策の実施項目、必要な予算措置について理事会へ付議し決議の上、実行するとの発言があった。

天辻理事から、準備委員会ボランティアの個人情報への対応は考慮されているかとの質問があった。

平井理事から、個人情報漏洩の保険等は考慮されているのかとの質問があった。

安藤委員長から、準備委員会ボランティアの個人情報も適用される。また保険も一連のアクションの中で検討するとの発言があった。

2) 運営規則の改訂（ジャパンカップ委員会新設の件）

坂谷常務理事から資料に基づき、運営規則の改訂（外洋艇推進グループ ジャパンカップ委員会新設の件）について提案があった。

ジャパンカップ委員会の新設趣旨は、「ジャパンカップ」は JSAF 主催となって 3 年間開催してきたが、その運営手法がいまだ確立されていない。この課題に対処するために、国体委員会に準ずるような形態を構築し、新年度同委員会発足へ向けて検討、協議する。具体的改訂内容は、外洋艇推進グループに、ジャパンカップ委員会を新設する。ミッションは、外洋艇全日本選手権（ジャパンカップ）競技の企画並びに準備、運営、競技の将来構想に関する事項、その他ジャパンカップに特化した事項とする。平成 30 年 4 月 1 日付きで関連規則を改訂するとの発言があった。

安藤委員長から、別表 3 委員会業務内容でアスリート委員会ならびに障がい者セーリング推進委員会の更新もしたとの発言があった。

<報告事項>

1) 監事報告

児玉監事から資料に基づき、監事報告があった。

各委員会における事業報告と決算報告は、適正に報告されていることを確認したが、本年度事業の 2 点について現状報告をお知らせいただきたい。①オリンピック準備委員会の契約において一部規程通り行われていないことが判明したが、改善された後に再度報告いただきたい。②セーリングワールドカップ蒲郡大会の寄付金収入と支出について、大会事務局経費の契約ならびに本年度連盟本会計に組み入れるのか報告いただきたいとの発言があった。

桑原オリンピック準備委員会副委員長から、契約関係は 100 万円以上については取りまとめている。JSAF と契約している広告代理店との関係上、複数見積もりが難しいこともある。セーリングワールドカップ蒲郡大会については、現在決算処理最中である。セーリングワールドカップ蒲郡大会寄付金支出については準備委員会事業で支出していることはないとの発言があった。

上野監事から、セーリングワールドカップ蒲郡大会の支出総額が明確ではない。実行委員会は責任ある任意団体として会計処理しているのか、JSAF 判断で支出処理されてい

るのか不明であるとの発言があった。

河野会長から、セーリングワールドカップ蒲郡大会では機動性をもって支出処理していくことを関係者へ依頼しているとの発言があった。

鈴木専務理事から、オリンピック準備委員会ならびにオリンピック強化委員会で引き続き検討していただきたいとの発言があった。

2) ライフジャケット規程

大村事務局長から資料に基づき、JSAF 個人用浮揚用具(ライフジャケット)に関する基準(小型艇(機関無し))について報告があった。

平成 30 年 2 月 1 日から小型船舶の甲板上では、原則、全ての乗船者が認証(桜マーク付き)ライフジャケットを着用することが義務化される。大型艇(機関付き)の場合は World Sailing の定めた外洋特別規定に基づく基準があるが、小型艇(機関無し)の場合、クラス規則、それぞれの大会で基準を設けている場合もあるが、全ての大会・練習中を包括しての連盟としての基準はない。従って、JSAF 個人用浮揚用具(ライフジャケット)に関する基準(小型艇(機関無し))を設けることとする。①個人用浮揚用具についてクラス規則、大会での基準がある場合はそれに従うこととする。②クラス規則、大会での基準がない場合の個人用浮揚用具は、ISO12402-5、レベル 50 または同等の基準に従うこととする。なお、未成年や身体の軽いセーラーの場合は、自分の体重を支えるのに十分な浮力があり、ISO 等による浮力表示がされているものとする。なお、大会中または練習中に動力を有する小型船舶(運営艇・審判艇・救助艇・コーチボート等)に乗船する場合には、必ず上記基準または認証された個人用浮揚用具(ライフジャケット)を着用することとするとの報告があり、了承された。

3) 総務委員会報告(会員管理システム等)

安藤総務委員長から資料に基づき、総務委員会報告があった。

平成 30 年度(2018 年度)JSAF 年会費支払と会員管理システム改善について、平成 30 年(2018 年)3 月 1 日(木)から運用を開始する。また、新システムに移行されてない加盟団体・特別加盟団体に導入ならびに会員各位へメールアドレス登録促進の協力を引き続き依頼する。また、セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会開催協力に対する感謝状を、セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会実行委員会名誉会長の大村秀章様、同大会会長の豊田鐵郎様、同大会副会長の稲葉正吉様に授与したとの発言があった。

4) オリンピック強化委員会報告

斎藤オリンピック強化委員長から資料に基づき、オリンピック強化委員会報告があった。

最近の国際大会の主な成績は、470 級ジュニア世界選手権(8/26~9/2、江の島)で、

高山大智・木村直矢組が 3 位、セーリングワールドカップ蒲郡大会（10/15～10/22、蒲郡）で吉田愛・吉岡美帆組が 470 級女子 2 位、磯崎哲也・高柳彬組が 470 級男子 2 位、土居一斗・木村直矢組が 3 位、大西富士子選手が RS:X 級女子 2 位、原田小夜子・永松瀬羅組が 49erFX 級女子 3 位となった。また、江の島オリンピックウィーク（10/26～10/29 江の島）も各クラス好成績を収めたとの発言があった。

5) オリンピック準備委員会報告

桑原オリンピック準備委員会副委員長から資料に基づき、オリンピック準備委員会報告があった。

①45 カ国 327 人がエントリーした日本初のセーリングワールドカップ（10 月 15 日～22 日、蒲郡海陽ヨットハーバー）ならびに江の島オリンピックウィーク（10 月 26 日～29 日、江の島）は、ともに台風 21 号・22 号の影響を受けたが無事終了した。②11 月 14 日、黒岩神奈川県知事、鈴木藤沢市長同席の下、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会実行委員会が開催され、記者会見が行われた。③オペレーターカードの発行は、オリンピックが開催される江の島水域で、レース期間外にも海外チームの多くのコーチボートなどの運行が予想されることから、国土交通省による特別処置として 2016 年 10 月より海外のコーチが決められた江の島水域を運航できるように免許証（オペレーターカード）を発行した。④12 月 1 日、日の丸セーラーズ感謝の集いをスポーツマンクラブで開催したとの発言があった。

入邊理事から、オリンピック・パラリンピック組織委員会報告があった。①懸案であったの資金負担問題は、東京都組織委員会が負担することに決定した。また、既存艇の移動費等は本大会時のみ負担となった。②レース海面は 5 海面の方向性で、漁業組合との会合では厳重な警備を配置することを確認している。③大会期間中の海上警備においては、関係者以外立ち入り禁止にする処置などを講じる法的処置も考慮しているとの発言があった。

森理事から資料に基づき、2017 セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会報告があった。まずは、本大会の準備ならびに大会運営の協力を感謝の意が表された。準備期間が短かった本大会を開催するにあたり、豊田自動織機社内に大会事務局とメンバーを配置いただいたことに重ねて御礼があった。組織運営、各種申請業務、警戒警備（テロ対応）、報告書ならびに決算書作成業務等、大きな視点での準備項目を今後の課題として次期大会へ向けて参考になると思われる部分を報告書にした。今後、愛知県が 19 億円あまりの資金を拠出し素晴らしい施設を提供いただいたことに応えるため、競技連盟が自立し、国際大会の誘致・企画運営の力をつけて、この施設を活用しなければならいと考えているとの発言があった。

6) 日の丸セーラーズ特別レポートの発行について

桑原オリンピック準備委員会副委員長から資料に基づき、日の丸セーラーズ特別レポートの発行について報告があった。

J-SAILING が年 1 回発刊であることから、スポンサー報告も兼ねて、JSAF 会員向けに本年度の日の丸セーラーズたちの活躍を特別レポートとして 11 月末発行する。発行にあたり、日の丸セーラーズスポンサーのラグジュアリーカード社の広告媒体同封を条件に、郵送費をご負担いただくことになったとの発言があった。

7) 2020 パラワールド日本招致の件

高間障がい者セーリング推進委員会副委員長から資料に基づき、2020 パラワールド日本招致ならびに障がい者セーリング推進委員会活動について報告があった。

①The Para World Sailing Championships 2020 について、2020 年東京パラリンピック競技大会においてセーリング競技が対象種目から除外されたことを受けて、World Sailing としては 2024 年パラリンピック競技大会でのセーリング競技復活へ向けて、2020 年に The Para World Sailing Championships 2020 をパラリンピック競技大会開催地において大々的に開催し、競技種目決定権限を持つ国際パラリンピック委員会 (IPC) に対して PR していきたいとの意向を持っており、JSAF は同大会開催について非公式に打診されている。World Sailing への立候補意志表明 (Bid Document) 提出は、共同主催となる予定の JSAF 承認が必要となる。②JSAF 障がい者セーリング普及・強化推進拠点候補地の選定結果、5 拠点すべてを、JSAF 障がい者セーリング推進強化拠点候補地としたとの発言があった。

入邊理事から、2024 年パラリンピック競技大会でのセーリング競技復活については、2019 年に決定する予定である。Para World Sailing Championships を開催には、設備が整った会場、採用艇の準備、行政からの財政的サポートが前提条件であるとの発言があった。

安藤総務委員長から、日本開催での規模や採用艇種については、World Sailing に確認しながら進めていくことが必要であるとの発言があった。

8) ワールドマスターズゲーム 2021 in 関西

中村理事から資料に基づき、ワールドマスターズゲーム 2021 in 関西のセーリング競技実施要項概要について報告があった。

ワールドマスターズゲーム 2021 in 関西は、和歌山市の和歌山セーリングセンター会場で 2021 年 5 月 18～30 日 (8 日間) で開催予定である。競技種目は、レーザー・レーザーラジアル・ウィンドサーフィン・テザー・ハンザ 303 の 5 艇種、参加資格は 30 歳以上

である。スポーツ愛好者であれば誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会であるので、理事各位も奮って参加していただきたいとの発言があった。

9) World Sailing 総会報告

戸張国際委員長から、World Sailing 総会について報告があった。

①国際委員会委員に高桑敬氏を委員として追加する。②World Sailing (国際セーリング連盟、以下 WS) 年次会議は、11月4～12日の8日間、メキシコのプエルト・バラルタで開催された。2016年の会議で Kim Anderson 新会長が選出された後、執行役員 (Board Member、以下 Board) がそれぞれの担当につき、各委員会も4年ごとの更新で新たなメンバーが選出された。加えて、WSは7月から8月にかけて事務所をサザンプトンからロンドンへ移設した。オリンピック関連は2016年度と変更点はない。レースオフィシャルズ IJ に日本から2名任命された。2024年パラリンピック競技大会でのセーリング競技復活への日本の活動には感謝している。ORC 総会では、IRC/ORC ワールドチャンピオンシップがオランダ・ハーグで2018年7月開催される予定である。③JOC 国際担当者会議において、JOC 国際要請アカデミーの参加要請があった。国際力の必要性を、多様性、自己認識能力などについて講義があるので JSAF からの参加を検討するべきであるとの発言があった。

10) 国体委員会報告

末木理事から資料に基づき、第72回国民体育大会セーリング競技について報告があった。10月1～4日まで愛媛県新居浜市「新居浜マリーナ」で開催された第72回国民体育大会セーリング競技大会は、合計45レース実施で成功裏に終了したとの発言があった。

黒川理事から、今大会での取り組みとして、①大会 WEB サイトおよびフェイスブックの開設し、公式掲示と成績表を L 旗掲揚とほぼリアルタイムにアップしたことにより、スマホやタブレットで確認ができるようにした (アクセス数 22,539 回)。②申告違反やトラッキングシステム違反に対し、標準ペナルティー (SP) を採用した。③毎朝ブリーフィングを実施し、レース委員会と選手・監督との意思疎通が図られ、スムーズなレース運営の一助となった。⑤レース運営に LINE を活用したとの発言があった。

11) レース委員会報告

大庭レース委員長から資料に基づき、2017年度 JSAF 公認申請等進捗状況一覧の報告があった。平成29年度11月23日現在で43大会申請があったが、大会報告書の提出が少ないとの発言があった。

鈴木専務理事から資料に基づいて、第82回全日本学生ヨット選手権大会レース委員長

から提出された事故報告書ならびに石川県セーリング連盟から提出された金沢工業大学ヨット部員死亡事故について、事故発生後は情報共有が大切であることから、危機管理ワーキンググループからの提言に基づいて事故報告を早急に提出いただくことが肝要であるとの注意があった。

大西理事から、石川県セーリング連盟から提出された金沢工業大学ヨット部員死亡事故について報告があった。

坂谷常務理事から、危機管理ワーキンググループではフローチャートで示しているが、JSAF と主催団体等に契約義務がないことから事故報告書がなかなか提出されない事情があるとの発言があった。

天辻理事から、事故報告書から JSAF が提訴されるケースはあるかとの質問があった。

坂谷常務理事から、JSAF 主催・共同主催の場合提訴は考えられる。事故精査後の対応になるので、事故報告書が必要である。事故対策委員会等の検討も必要になるとの発言があった。

大村事務局長から、JSAF 運用規則には報告義務は必要とされていない旨、発言があった。

安藤委員長から、公益財団法人として加盟団体の拘束性（支配・非支配関係）の整備が必要になるとの発言があった。

12) ルール委員会報告

大村ルール副委員長から資料に基づき、ルールブック 2017-2020 電子書籍版について報告があった。

昨年 5 月理事会承認されたルールブック 2017-2020 電子書籍版の販売を開始する。販売形態は、インターネット上のデジタルコンテンツ販売マーケットプレイス DL-Market を通じて PDF ファイル販売、販売価格は 1,000 円であるとの発言があった。

13) 普及指導委員会活動報告

川北普及指導委員長から資料に基づき、普及指導委員会報告があった。

①11 月 10～12 日の 3 日間で、公認コーチ専門科目講習会前期を実施した。特に、ライフセービングにおける海上での心肺停止状態の患者への具体的対応や救急救命のポイントでは、心肺停止から約 7 分間の間に復帰させることが、社会復帰の確立を格段に上げることから、AED を救助艇に積むことの重要性を共有した。②日本財団「海と日本プロジェクト」は全国で 5000 名を超えるイベントを支援できた。行政の後援やマスコミ取材なども多数受け、セーリングの認知度を上げることができた。来年度も日本財団の助成で「海と日本プロジェクト」は継続する。③ライフジャケットに関する JSAF 基準については、関係委員会と調整して周知徹底を図っていききたいとの発言があった。

14) レディース委員会報告

富田レディース委員長から、レディース委員会活動報告があった。

チャイルドルームを設置は、愛媛国体、福井プレ国体、セーリングワールドカップ愛知蒲郡大会他、計 6 回実施した。次年度には更なる周知徹底をすすめていきたいとの発言があった。

15) 外洋艇推進グループ報告

坂谷常務理事から資料に基づき、外洋艇推進グループ報告があった。

①ジャパンカップ開催基準について、開催地を 2018 年以降 3 か年間は東海水域、開催期間を 11 月第 1 週で設定、クラス分けは当初よりクラスを複数設け、クラス毎にジャパンカップを与えることで改定した。②今回で第 5 回目となる沖縄-東海ヨットレース 2018 は、2018 年 4 月 29 日（日）12：00 スタート、宜野湾マリーナ沖から蒲郡市・ラグナマリーナ沖（720 海里）で開催する。なお、主催権のない団体による「沖縄-東京ヨットレース」が同時にスタートすることになっているとの発言があった。

大坪外洋安全委員長から資料に基づき、外洋安全委員会委員の追加について報告があった。OSR 翻訳作業や委員会業務の円滑な作業進行のため、平出篤志氏を委員として追加するとの発言があった。

吉田外洋計測委員長から資料に基づいて、外洋計測委員会報告があった。2017 年 10 月フランスで開催された IRC コンgressでは日本の IRC フリートは 5 位であった。また、オランダのハーグで 2018 年 7 月開催予定の IRC/ORC ワールドチャンピオンシップが開催される予定である。ORC 証書の国内発行は約 50 艇前後であるが、世界のレーティングの動向からを見据えた国内でのプロモーションも図っていききたいとの発言があった。

16) キールボート強化委員会報告

中澤キールボート強化委員長から資料に基づき、キールボート強化委員会報告があった。

第 7 回 JYMA 選抜大学対抗&U25 ヨットマッチレース 2018 は、2018 年 3 月 2~4 日の間、日産マリーナ東海で開催する。最大 12 チームを予定している。その他、9 月 NYYC インビテーションナルカップにサマーガールが参戦して 7 位であった。韓国で J24 クリニックが開催されたとの発言があった。

17) JSAF カレンダー販売について

安藤正雄事業開発委員長から資料に基づき、2018 年版 JSAF カレンダー販売について報告があった。

18) 平成 30 年度事業計画・予算提出依頼

斎藤常務理事から資料に基づき、平成 30 年度事業計画・予算提出依頼があった。

平成 30 年度事業計画及び予算を各委員会委員長に依頼する。本理事会前に開催した委員長会議で説明させていただいたが、平成 30 年度連盟基本方針（骨子案）を参照されて提出いただきたいとの発言があった。

19) 平成 28、29 年度理事会-出欠集計

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 28、29 年度理事会-出欠集計について報告があった。JSAF 会議運営ガイダンス第 2 条 5 項を再認識していただきたい旨、理事各位にお願いがあった。

20) 平成 30 年度 JSAF 行事予定（案）

大村事務局長から資料に基づき、平成 30 年度 JSAF 行事予定（案）について報告があった。

21) 平成 29 年度メンバー登録数（10 月 31 日現在）

大村事務局長から資料に基づき、JSAF メンバー登録数実績について報告があった。

平成 29 年度メンバー登録 10 月 31 日現在で合計 10,299 名との発言があった。

22) 平成 29 年度通常第 2 回理事会議事録案（9 月 3 日）

大村事務局長から資料に基づき、平成 29 年度通常第 2 回理事会議事録（案）について報告があった。

23) その他

①岡村理事から、九州一周フラッグリレーを外洋団体と協力して遂行予定であるとの報告があった。

②井川理事から、来年のハンザワールドの準備を進めている。本年 10 月に開催したりハーサル大会約 100 名の参加選手を得て行われた。本番では 20 カ国 150 艇を予想しているとの発言があった。

③相澤理事から、東日本大震災から復興した閉上ヨットハーバーの指定管理者として宮城県セーリング連盟が立候補した。来年 1 月末日まで、復興への寄付金募集の協力依頼があった。

④川北理事から、平成 30 年度連盟基本方針の骨子案については、理事会で中長期方針を議論して作成するのが基本である。審議・承認する前に、理事会で議論する機会が必要であるとの発言があった。

⑤菊池理事から、来年度フラッグリレーの予定については、日本海ルートを予定している。また、複数ルートや別ルートも考慮しているので、各水域から予定を提出していただきたいとの発言があった。

入邊理事から、組織委員会参加プログラムを利用している団体は、当連盟「フラッグリレー」を含めて3団体しかいない。是非、日本全国を廻って盛り上げていただきたい。また、メディアへPRすることをお願いしたいとの依頼があった。

⑥大村事務局長から資料に基づき、平成29年度全国加盟団体代表者会議および新年会開催について報告があった。

⑦大村事務局長から資料に基づき、年末年始の事務局業務について報告があった。

平成29年度通常(第3回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成29年 12月 2日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 川 北 達 也

議事録署名人 理 事 宮 野 幹 弘

副 会 長 中 川 千 鶴 子

副 会 長 桑 原 啓 三

専 務 理 事 鈴 木 修

常 務 理 事 斎 藤 渉

常 務 理 事 坂 谷 定 生

監 事 斉 藤 威

監 事 児 玉 萬 平

監 事 上 野 保